
ミシシッピー・ポテト

オオハタ ユウキ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ミシシッピー・ポテト

【Nコード】

N1682M

【作者名】

オオハタ ユウキ

【あらすじ】

数ヶ月振りに書きました。あらすじは特にありません。

微かに吹く風によつて揺られる波の向こうに沈んでいく太陽を眺めてみると、僕は何となくそれがこの世の終わりに感じた。でもそれは単なる錯覚に過ぎないのかもしれない。波が色を変え、空が色を変えるのを目に焼き付けるようにしてじっと見つめると、隣に立っていた若い女性がふわりと宙に浮いた。そして崖の下に広がる海へと真つ逆さまに落ちていき、瞬きをする間も無く波へと吸い込まれていった。そうやって今までに何人もの命を奪つていった崖から見える景色は素晴らしかった。多分、人の命を吸収すればするほど、景色はより一層素晴らしい物へと変わつていくのだろう。

それから暫くの間、僕は忙しさにかまけて崖へ行くのを忘れてしまつていた。あれから数ヶ月が過ぎ、ようやく行つた頃には崖はもう以前のような景色を見せてくれることは無かつた。

数ヶ月も放つておいたせいなのだろうか？ ではどうすればもう一度あの景色を見せてくれるのだろうか？ いくら考えても答えは出ない。その間にも無駄な時間はどんどん過ぎ去つて行つてしまうのだ。頭にこびりついて離れないあの景色をもう一度見るにはどうすればいいのだろうか。

崖の下へ女性を落とすことに最初はためらいこそあつたものの、何度も繰り返していく内に、そんな感情もどこかへ消え去つてしまつていた。女性を落とす度にせめてもの償いをとナイフで体に傷を付けていったけど、体中が傷だらけになつたのでそれもいつの間にかやめていた。

僕が右手を前に出すと、柔らかい肉の感触が一瞬だけ掌に広がる。ちゃんと海の底へと沈んで行くのを確認してから、素晴らしい景色を目に焼き付ける。そしてまた女性を落とす。

一度だけ蹴飛ばして落としてみた事があつたけど、あまり良くな

か
っ
た。
。

(後書き)

ありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1682m/>

ミシシッピー・ポテト

2010年10月8日23時37分発行